



プログラム
11

水害に学ぶ地域の見守り ～災害への意識を高め、助け合いにつなげよう～

実行主体：第4次能美市地域福祉活動計画 見守り・助け合い推進委員会
能美市民防災ネットワーク・社会福祉法人能美市社会福祉協議会
日時：2月23日（木・祝） 13時30分～15時30分
会場：寺井地区公民館 大ホール
参加者：110名



内容 令和4年8月豪雨災害での水害を教訓とし、災害から見えた地域課題や見守り・助け合い活動の事例から我が事として捉え、住民同士日ごろからの顔の見える関係づくりや、ボランティア、各種団体等との“つながり”の大切さについての理解を深め、一人ひとりができる見守り・助け合い活動を考え合う機会としました。

また、見守り活動は、いざという災害時での対応にもつながることから、今年度は初の試みとし、能美市民防災ネットワークと見守り・助け合い推進委員会との合同開催につなげました。市危機管理課、寺畠町会、能美市民防災ネットワークより、災害時の水害事情や、見守り・助け合いの大切さについて報告いただき、グループワークでは、もしも自分の地域で水害が発生したら・・・「自分」「近所」「地域（地域福祉委員会）」「ボランティアや各団体等」で何ができるのか、自分事に置きかえ、“見守り・助け合い活動”について、それぞれの立場で意見を出し合い、思いを共有しました。

今後に向けて

見守り・助け合い推進委員会では、地域における「つながり」の大切さの意識をさらに高められるよう継続的に協議を深め、地域ぐるみの助け合い活動へとつなげていくためのきっかけづくりをすすめます。またICTを活用し、地域の見守り・助け合い活動の情報を広げていくための周知方法についても、各所属団体で取り組めるような工夫につなげられるようすすめます。



市危機管理課、寺畠町会、能美市民防災 NW より災害時の状況についてそれぞれの立場より報告。



報告を受け、地域でできる見守り活動についてグループワークで思いを共有した。

参加者の感想（一部抜粋）

- 日ごろの繋がりを大切にすることが、一番の見守りと感じた。
- 発生時の対応や、日ごろの地域のつながりについて考えることができた。災害発生時、いつの段階から避難行動を始めるかが大切。
- 防災ネットワークの活動内容を初めて知った。改めて助けることの難しさを感じた。
- 他の地域での活動や意見を聞くことは、今後の自身のモチベーションアップにつながった。